

上横倉の獅子舞



上横倉の獅子舞は、宇都宮市北部に位置する上横倉地区において、長きにわたり伝承されています。

毎年8月15日、鎮守多藤神社(たとうじんじゃ)にて、五穀豊穰・悪霊退散・雨乞いなど、人々の願いを込めて獅子舞の奉納が行われます。

この獅子舞は、三匹の獅子が、笛の音に合わせて太鼓を打ち鳴らしながら舞う、一人立三匹(ひとりだちさんびき)の獅子舞です。

現在は、獅子舞保存会が結成され、平成3年2月には、宇都宮市指定無形文化財に指定されました。

上横倉の獅子舞

この獅子舞は、宇都宮市関白に伝えられる、関白流(かんぱくりゅう)の流れをくみます。

地域の言い伝えによりますと、発祥は平安時代の延喜12(912)年にさかのぼります。

下野国高座山(現 高館山)に本拠地を構えた賊、蔵宗・蔵安(くらむね・くらやす)兄弟は、この地一帯の人々を苦しめていました。

鎮守府将軍 藤原利仁公は、征伐のため兵を挙げ、蔵宗・蔵安兄弟を討ち果たします。

しかし、利仁公は病に倒れこの地で亡くなってしまいました。

家臣たちは泣く泣く葬儀の準備をはじめたところ、どうしたことが、一天にわかに掻き曇り闇夜の如くなり、ひどい嵐となってしまいました。困りはてた家臣は、悪魔消滅を期して宇宙の麒麟(きりん)を象った頭三つを刻み、家臣3名にかぶらせて舞を舞わせたところ、たちどころ暗雲が消え、晴れて無事葬儀を済ませることができました。この時舞った舞が「関白獅子舞」の起源となります。

上横倉は、天保9(1838)年に関白より舞を伝授され「天下一関白流」の額を戴いています。

以来、藤原利仁公の功德をいつまでも忘れることのないようにと、人々の思いが込められ、地域の人々により代々傳承されています。



上横倉の獅子舞は、集会所から多藤神社への神詣り(かみまいり)から始まります。

多藤神社へと続く道筋を「街道流し(かいどうながし)」と呼ばれる獅子舞の隊列が練り歩き、鳥居の前で、神社の境内に入るにあたっての清めとして、鳥居舞(とりいまい)が奉納されます。

鳥居舞が終わると、参道を上り本殿を3周した後、神事が行われます。

神事に続き、「棒術」が行われます。棒術は、獅子舞の舞台を清めるとされ、農民が自衛のために杖を用いた技が芸能化したものです。

続いて、神楽舞などの舞が奉納されます。舞の途中では、「唄い」による唄が披露されます。獅子は、唄にあわせて頭を振りながら太鼓を叩きます。

獅子は、舞の奉納が終わると、参道を下って集会所へと戻ります。集会所では、棒術・弓ぐりの舞が行われ、午前中の奉納が終わります。

8月15日の午後、上横倉地区では、新盆の家がある年には、吊い獅子(とむらいじし)が行われます。かつては、新盆の家々をまわっていましたが、現在は集会所の前に位牌をおき、棒術やあやとりの舞などの供養の舞が行われます。





《上横倉の獅子舞のご案内》

実施日：8月15日(午前10時頃～)

場 所：多藤神社・上横倉自治公民館



平成22年度宇都宮市伝統文化映像記録作成事業

企画・製作：宇都宮市教育委員会

協力：上横倉の獅子舞保存会

助成：文化庁 平成22年度地域伝統文化総合活性化事業

発行日：平成23年3月31日

著作：宇都宮市教育委員会

連絡先：宇都宮市教育委員会文化課

宇都宮市旭1丁目1番5号

TEL.028-632-2764

FAX.028-632-2765